

一年の計は元旦にあり

平成31年が始まりました。平成最後の年であり、次の時代の始まりの年でもあります。

この区切りの年を法人の、そして自身の心に残る年にしたいものです。

さて、平成31年のスタートに当たり、新たな目標と実行計画を考えておられるでしょうか。

「一日の計は晨(朝)にあり、一年の計は春(正月)にあり、一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり」という言葉があります。中国の明代に編纂された「月令広義」という年間行事や儀式・しきたりなどを解説した書物の「四計」の項に記されています。その意味は、一日は朝の気持ちのあり方で決まり、一年は年の初めの決意で決まる。人生はまじめに勤めることで決まり、一家の将来は身の振り方(生き方・健康)で決まる。言い換えますと、初めに目標や計画を掲げること、そしてコツコツ努力し、正しい生き方をすることが大切であるという事です。「一年の計は元旦にあり」はこれに由来しているそうです。

また、戦国時代の智将と言われた毛利元就は、元日の朝、祝いの膳をすすめた家臣に、「年の初めに一年の事をじっくりと考える。それが本当の祝いというものである。」と諭したそうです。

法人や組織だけでなく、自分自身の目標と実行計画を立ててはいかがでしょうか。自分の目標が明確になっていきますと、何かうまく行かない時、悩んだり迷ったりして前に進めなくなった時、自分は何を目指していたのだろうと自分の目標に立ち戻ると、これからどうするべきかを見出すことができます。

目標を立てるという事は、人生という航海で行き先を決める事とも言えます。行き先を決めると次に航路を考えます。そして航路に基づいて航海に出るのです。途中で台風や嵐に遭遇しそうになれば、航路を見直し、新たな航路で行き先を目指します。これが目標と実行計画に基づいて行動するという事です。そう考えますと、目標が無いということは、行き先のない航海に出て彷徨っているという事になります。自分の人生の目標を決め実行していくことが、自分の人生を自分で決めて、生きていく事に繋がるのです。

自分の人生の長期・中期・短期目標を設定し、人生設計書を作成してみませんか。その際に、目標達成が確認できる具体的なゴール・それぞれの実施期限を明確にしてください。